

講演者プロフィール

1971 年生まれ。1995 年創価大学文学部卒業。2001 年杏林大大学院国際協力研究科修士課程修了。2009 年大東文化大学大学院アジア地域研究科博士課程単位取得退学。主に中国の環境問題を研究しており、特に水問題について強い関心を持っている。1993 年 9 月から 1994 年 7 月まで大連・遼寧師範大学に留学。2004 年 9 月から 2005 年 7 月まで霞山会給費派遣留学生として天津・南開大学に留学し、海河流域の水問題を研究、水価格の動向について調査した。近年の研究成果としては、「中国の水問題は解決可能か？産業連関からのアプローチ」（『東アジアへの視点』（2010 年）共著論文）、「中国・海河流域における水利権問題－水環境保全と経済開発の枠組みの中で」（アジア政経学会 2011 年度東日本大会発表）、「中国の水問題とは何か－問題解決に向けてのアプローチ」（『大東アジア学論集』（2014 年））などがあり、また日本語教育に関しても「中国の大学日本語科における日本人教師の役割：天津商業大学の教育現場から考えた教育文化」（『大東アジア学論集』（2013 年））に論稿を發表している。

学部卒業後は地元・埼玉の住宅会社に就職し 3 年間働いた。そこでは、不動産営業と中国人研修生の教育などを担当した。また 2008 年から約 7 年間、中国・天津市にある大学日本語学科で、日本語を教えてきた。このように、自身のライフワークの中で、中国との関わりは非常に大きな割合を占めている。現在もその点は変わらず、埼玉県社会福祉課援護恩給の非常勤職員として、中国帰国者（「中国残留邦人」とも呼ばれている）への日本語支援・相談員として働いている。また東京電機大学でも非常勤講師として留学生の日本語授業を担当している。